

麻績村の教育方針に関する研究検討委員会

「第2回保育園・学校部会」 会議録

日時 平成29年8月1日 午前9時

場所 地域交流センター 第3・4研修室

出席委員 市川祥介(麻績村教育委員) 小山正文(麻績村教育委員)
高坂 徹(筑北中学校長) 清沢 剛(筑北中学校教頭)
福田弘彦(麻績小学校長) 鳥海 康(麻績小学校教務主任)
北條泰瑞(麻績小学校教頭) 臼井孝夫(麻績保育園長)
宮川裕満(学校組合教育委員)
欠席委員 宮下智恵美(筑北中学校教務主任) 刈間伸一(麻績小学校 PTA 会長)
小山芳道(筑北中学校 PTA 会長)
教育委員会事務局 臼井太津男(教育次長) 尾和正行(主事)

1 開会

教育次長：おはようございます。定刻となりましたので、麻績村の教育方針に関する研究検討委員会の第2回保育園・学校部会を始めていきたいと思います。今回の部会につきましては公開しておりますので、傍聴希望があれば傍聴人がいることとなりますのでご理解いただければと思います。傍聴人の方にはお願いになりますが、会議内で発言ということはありません。また、会議の支障になるようなことにつきましてはご遠慮いただきたく思います。よろしく願いいたします。

2 部会長あいさつ

部会長：あらためましておはようございます。今日は、ご都合をつけてご出席いただきましてありがとうございます。この会議は麻績村の教育方針に関する研究検討委員会ということでございますが、前回の会議では「併設型の小中一貫校を目指していこう」ということについて皆さんに確認していただいたと思いますが、大事に考えていきたいことについて3点申し上げたいと思います。

1点目は、教育の問題ですので、あくまで子ども中心に考えていくこと。将来について考えていくのですが、今の子どもたちについても大事に考えていくこと。

2点目は、みんなの力で麻績村の教育が成り立っているということをお大事に考えること。前回の会議で、研修会もここにいるメンバーだけでなく、地域の方も一緒に参加できるようにしたいという話がありました。地域の方とできるだけ情報を共有していただくことも非常に大事なことだと思います。

3点目は、公立の教育になりますので、学習指導要領の方向に沿っていくことも大事になりますので、皆さんも重々理解されていると思いますが、お願いいたします。

3. 協議事項

教育次長：それでは、早速協議事項に入りたいと思います。協議については部会長に進行をお願いいたします。

(1) 一貫教育についての再確認

メリット・デメリット（メリットの最大化・デメリットの最小化）

部会長：それでは、事務局から説明をいただいてから皆さんのご意見をいただきたいと思いますので、お願いします。

教育次長：（資料について説明）。

部会長：一貫教育のメリット・デメリットとして何があるのかをご意見をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

委員：求められるものとしては「人との関わり」というところだと思いますが、今私たちが目を向けていないところにもそれを求めることができる可能性も考えながらデメリットをいかにメリットに代えていくかを考えていくべきなのかなと思います。

委員：1番心配されるのは人間関係の固定化という部分ですが、筑北の子と

も関わればと思います。デメリットをいかに崩していくかというのが課題かと思います。

委員：学年によっては一桁の学年が出てきていますので、一貫というところで良い先輩の姿を見せたり、保育園等と交流する中で自分のできることを探したり等を行うことで、人数が少ない中でも一貫の良さを生かすことで学びや人とのつながりが広がって保・小・中一貫の体制ができていくのではないかと思います。

部長：ありがとうございます。それでは、その他にご意見いただけますか。

委員：昨日、研修会で生坂中の先生と話をする機会がありましたが、少人数であるが故に、先生の指示が無くてもすぐに集まって行動ができてしまうので、それを先生たちは「できるじゃないか」と思ってしまって、それ以上の向上する気持ちが薄くなっているという話がありました。筑北中でも 5 分前に集まって行動するということができていたので、先生たちは「できるじゃないか」と思ってしまいますので、もっと上を求めるにはどういう指導をすればいいのかというところも小中で共通して行えると良いのかと思いました。メリットとしては少人数であるので細かく見ることはできるのですが、先ほどのようなことが課題になると思いました。

部長：その他にご意見いかがでしょうか。

委員：保育園としては、小中学校のお兄さん、お姉さんとのつながりというメリットを大事にして生かしていければと思います。

部長：デメリットとして、子どもたちを見る教師の視点からの話もございましたが、1 番多くは「子どもたちの人間関係」だと思います。学級担任を替える、あるいは異年齢集団をつくる、全校活動を多く取り入れる等の今できることはやっています。さらに保・小・中となった時に小学校の子が保育園の子を見ることで向上心が高まるということも期待できることだと思います。その他にご意見ございますか。

委員：デメリットを逆手にとって考えるようなことが大事になると思います。一貫教育でさらに小規模の為に人間関係が固まってしまうことが心配されますので、一人ひとりが考えて行動するような方法をとっていけばいいのかと思います。保・小・中と連携して行う中で中学生がリーダーとなって進める部分や小学校の高学年がリーダーとなって進める部分ができるというのがメリットになると思います。

部長：その他にご意見いただけますか。

委員：一人ひとりがリーダーを務める機会が多くなるので、責任を持つ人を人数が少ないから固定化させるのではなくて、回すことで責任感が向上していくと思います。人数が少ないというデメリットは村の中だけでは改善は難しいので、他校と交流する場を設けるということで概ね解消することができるのではないかと思います。

部長：その他にございますか。それでは、この問題については会を重ねるごとに深めていくということで、今後は今の話をどう具体化するかということを考えていただくということでよろしいでしょうか。

全員：(了承)

(2) 今後のスケジュールについて

部長：それでは、今後のスケジュールについて説明をいただきたいと思います。ここで、お示しするのは(案)でありますので、自由にご意見を出していただければと思います。それでは、説明をお願いします。

委員：お願いします(以下、資料に沿って説明)。

部長：ありがとうございました。具体的な例も含めてご説明いただきました。タイムスケジュールの流れ、分担の仕方、そして全体を通してご意見をいただきたいと思います。それでは、まずタイムスケジュールの流れについていかがでしょうか。

委員：細かい部分では調整が必要になると思いますが、大まかな流れとしましては良いと思います。

部長：それでは、流れについてはよろしいでしょうか。

全員：(了承)

部長：それでは、分担項目についてご意見をいただきたいと思います。教育委員としてはどうでしょうか。

委員：授業時間は子どもたちが過ごす中で1番長い時間になりますので、授業中心ということではよろしいと思います。

委員：私も流れ、分担ともに良いと思います。

部長：それでは、このような分担で始めていきたいと思いますが、始めてから課題や問題点が出てくるとお思いますので、それはその都度考えていきたいと思いますということで、とりあえずこの分担で進めるということをお願いします。それでは、分担の中身についてご意見いただけますか。

委員：項目は良いと思いますが、将来の子どものことを考えるとキャリア教育を保育園・小学校・中学校でどのように進めていくのかというものも必要かと思いますが、それは「ふるさと学習」や「児童会・生徒会」というところで合わせて考えていくのでしょうか。

委員：キャリア教育はなかなか難しく中学校の場合、キャリア教育は「総合的な学習」と重なっています。児童会のこともあります。その他にも大事にしていることをどの項目に入れるのか難しい部分もありましたので、全部を網羅できてはいないと思います。

部長：それでは、このような形で進めていくということではよろしいでしょうか。「保育園長さんは広い立場から助言をいただく」となっております。

ますが、全てに関わるというのは大変ですので、分担ごとにある程度まとめていただいたものを園長先生に助言いただいたり、ご支持をいただいたりとするようにしていくしかないと思います。私もコーディネーターまではできないまでも、お互いの関係づけを大事に考えて総合的にやっていきたいと思いますので、よろしくお願い致します。

それでは、従来は三校連絡会がありましたが、筑北村からの申し入れがあり、三校連絡会がなくなった時間に保小中三校園連絡会ということで位置づけしていただいた訳ですが、麻績小学校でどのように進めるのかの叩き台を出していただければと思いますが、ご意見いただけますか。

委員: 10月13日(金)は予定がなくていいのかなと思っております。

部長: それでは、10月13日を原案として次回に確認できればと思います。内容については、事務局と相談して進めていただきたいと思います。それでは、10月の計画については小学校にお任せするという事でよろしいでしょうか。

全員: (了承)

部長: それでは、その他に何かありましたらお願いします。

委員: とりあえずは進めて、項目が多いですが先生方の負担にならないように整理整頓をして減らす部分は減らすなど進めながら考えていただいて、まずは今行っていることをスタートしていくところからだと思います。

委員: 1点補足といいますかお願いになりますが、予算が必要になってくる部分も出てくると思います。例年ですと12月末に予算が締切られるようなスケジュールになってくると思いますので、できることの実施の中で来年度早々にできることについては当初予算にあげていく等の対応ができればと思いますので、予算に係る部分については前倒しで検討していただければありがたいと思います。そうしていた

できれば予算説明の時に資料として説得力が出ますので、お願いできればと思います。

部会長: ぜひ、分担ごとに予算がどこに必要なになるか議題の中で話し合ってくださいと思います。その他にございますか。それでは、今後のスケジュールの9月については保小中三校園連絡会の計画と内容を確認していただきたいと思います。

(3) 麻績村として目指すべき「子ども像」

中学卒業時の生徒に求めるもの

部会長: それでは、(3)麻績村として目指すべき「子ども像」に決めていきたいと思いますが、最終答申の中からどのような子ども像を目指すのかを私の方からお示ししたいと思います。

1つ目は、子どもたちの内側から「こうなりたい」という気持ちを育てていき、大きな志を持ちそれに向かって進んでいく子どもを中核として考えています。

2つ目は、体験学習を基盤として ICT を使いこなす事のできる子ども。体験学習等を通して、幅広く人間力を育てていき情報教育に強い子どもを育てること。

3つ目は、麻績村ならではの子ども、麻績村を愛する子どもになってほしいが、広くグローバルな視点で故郷を大事にできる子どもを育てること。

以上のことを中心に最終答申として出されましたが、これらを参考にしながら「目指す子ども像」についてのご意見をいただきたいと思います。

委員: 中学校の方では、中学校だけで考えているものがありまして「地域の担い手として 21 世紀の社会をたくましく生き抜く生徒」というものがあります。1つは、最終答申にもありましたが、「地域」ということは外せないと思います。「地域」の捉えですが、麻績と筑北の担い手になってもらえるとありがたいですが、それぞれ住む地域は違ってくると思いますので、それぞれの地域で生きていける力をつけたいというのが1つあります。どういった表現にするのかは皆さん

にご協議いただきたいところではあります。

もう1つは、21世紀の社会をたくましく生き抜くの中には、先ほど話がありました「人間力」や「志」など色々あります。抽象的な表現になってしまいますが、私の考えとしては以上になります。

委員: 部会長がおっしゃった3つに関係することとしては、「自分を表現する力」というのが大事になると思います。自分の思っていることを周りに伝える力が無いとそこで生きていけないし、地域から愛されるということも難しくなりますので、「自分を表現できる力」、「自己表現ができる力」というものが大事になるのかと思います。いろんな手段を使って、その力をつけることが1つ大事になると思いました。

部会長: それでは、その他にご意見いただけますか。

委員: 14人と少ない学級でこのまま中学校も行くことになると思いますが、高校に行く段階では一人ひとりバラバラになると思いますので、一人になった時にどれだけ自分の力を発揮できるのかということは子どもたちにも伝えていかないといけないことと自分の中で思っていることでもあります。麻績村の担い手になれる子というもの大事だと思いますが、将来の展望もはっきりしていない中でも、もっといろんなところに行ってみたいという気持ちもありそうだなと思いましたので、一人になっても生きていかれる子たちを育てていくことが大事かと感じております。

委員: 麻績の子どもたちは地域の方の温かい心の中で育っていると思います。その反面、手を掛け過ぎているところがあるのかなと感じていて21世紀をたくましく生き抜くという意味でも壁にぶち当たった時に「自分で考えて解決して実行に移せる力」を学校生活の中でつけていけるとたくましく生き抜くというところに繋がっていけるかと感じました。

委員: 中学校の話を受けて、小学校では「自分の足で立てる子ども」。地域を知ってつながり、自分たちの力を高めていき、その先にあるのが

「自分の足で立てる子ども」であると感じました。

部会長：その他にご意見いただけますか。

委員：保育園としましては、色んな体験を行っている訳ですが、今いる子供たちが中学校卒業時はどうなるかというのは想像が難しいところではありますので、小学校、中学校につながるようにお渡しできるようにいければと思っております。

部会長：その他にご意見いただけますか。

委員：地域の担い手としてたくましくということで、私個人としては麻績の人口も減少している中で戻ってきてくれるような人間を作りたいと思います。東京や海外に行っても最終的には麻績に戻ってきてくれるように「麻績っていい所だな」と感じてもらえるように育てていけると良いなと思います。

委員：特に最近顕著なこととして大学を卒業して勤めても早期に退職希望する人が多い訳ですが、大きな原因としては喋れない、コミュニケーション能力が低いということがあるようです。インターネット等が普及したことで個の世界に閉じこもってしまい、実際に人との付き合いができないということが問題としてありますので、先ほど話でもありましたが、「自己表現力」が大事になると思います。また、外に飛び出して色んな世界を見て回った中で「やっぱり故郷は良いな」と選択肢の1つに入れてもらえると良いのかと思いますので、故郷を理解するために学習をして、故郷の良さを知った上で飛び立ってもらい、その中で故郷の良さを感じてもらえば良いのかと感じました。

部会長：そうですね。飛び立ったとしても心は故郷に寄り添ってもらおうということは大事だと思います。ふるさと教育が充実して行われることが故郷に寄せる思いというものにつながると思います。また、自己表現力というものは周囲との関係の中で培っていくものだと思いますので、保・小・中一貫教育を行うことで自己表現力を育てることは

できると思います。異学年集団の中でのリーダーシップを発揮するということは自己表現力を高めることはできると思います。ふるさと教育のことも大きく出ましたが、集団の中で生きていくために自分をどう表現していくのかということが大きなポイントとして出されたと思います。それでは、次回まとめたものを「前回の復習」ということで出しますので、それに対してご意見を出していただくということで今回はここで打ち切りたいと思います。それでは、その他に移ります。

4 その他

部会長：研修を行いたいということで前回も話がありましたが、研修地の希望はありますか。

委員：予算や日程のこともありますので、長野県内で考えた方が良いでしょう。

部会長：保・小・中一貫教育を行っているというところでは資料でも出してもらった野沢温泉村もありますが、予算のこともありますので、事務局で検討していただいて次回に出していただくということでお願いします。その他によろしいでしょうか。それでは、次回の会議の日程に移ります。

5 次回開催日程

平成 29 年 9 月 22 日(金) 午後 5 時 00 分 ～

6 閉会

教育次長：本当に貴重なご意見をいただきましてありがとうございます。今後もしもご意見を多くいただいて進めていければと思いますので、よろしく願いいたします。本日は、ありがとうございました。